

Bridge ~市民病院と地域をつなぐ~

Vol.23
2024. 4月

— 目次 —

- 院長からのご挨拶
- 新任看護局長のご紹介
- 認定看護師同行訪問について
- 昇格部長と新任科長のご紹介

発行：豊橋市民病院 患者総合支援センター
0532-33-6111 (内)1491

院長からのご挨拶



院長 浦野 文博

Bridgeは、地域連携登録医の皆様には豊橋市民病院の活動をお知らせする情報機関誌です。

COVID-19はエンデミックへ移行しましたが、いまだ愛知県内で600名以上の方が入院治療を受けています。当院でも散発的に院内発生がおこっており、警戒を緩めるわけにはいきません。皆様も十分注意していただきたいと思います。

さて、まずは、人事のご報告です。3月をもちまして、副院長兼看護局長の間瀬が退職しました。今後は、引き続き当院で後進の育成にあたります。

高齢化に伴い、要介護者の在宅での医療・介護が今後も増加すると思われまます。その際の課題のひとつに褥創、ストーマトラブルがあげられます。この課題に対し、当院皮膚・排泄ケア認定看護師が訪問看護師に同行してケア・指導にあたる認定看護師同行訪問を開始しましたので、そのご紹介をします。

また、看護局長に昇格した渡津恵美子、部長昇格しました斗野、中村、渡邊の3名の医師、ならびに退職した脊椎外科部長の吉原を引き継いだ井上に抱負を語っていただきました。

新任看護局長のご紹介

令和6年4月より、間瀬前看護局長の後任として看護局長を拝命いたしました渡津恵美子と申します。この場をお借りして皆様にご挨拶申し上げます。

この度、看護局長を務めるにあたり、責任の重さを痛感しております。看護師として豊橋市民病院に就職して35年、多くの患者さんと出会い、患者さんやご家族から“人として、看護師として”こうあってほしいという願い、また“病院として”地域の皆様が期待することを教え導いていただき、看護師の存在意義や価値、看護の本質とは何かを幾度も考えながら務めてまいりました。そして、患者さんと関わる中で、看護の力の可能性やすばらしさを感じる機会をたくさんいただきました。心より感謝申し上げます。

これから“人生100年時代を生きる”と言われる中、病院を取り巻く社会情勢は大きく変化してまいります。この先も私たちは新興感染症や地震災害

を含め、時代の変化を予測しながら地域のニーズと信頼に応えるべく、医師をはじめ多職種の方々と協働し、また地域の皆様のお力もお借りし、地域の医療と看護の質向上に向け貢献していく所存でございます。看護局として、今後も患者さん中心の「患者さんに安心していただける、優しくあたたかい看護」を理念とし、当院がずっと大切にしてきた患者さんが「その人らしく生きることを支える」看護を守り継続してまいります。微力ではありますが、これからも患者さんにとってより良い看護を提供するために精一杯努めてまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

看護局長
渡津 恵美子



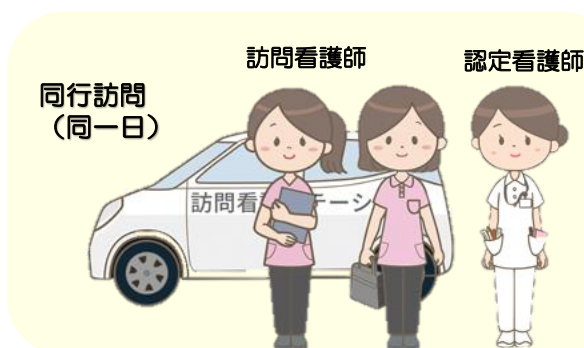
入退院支援センター師長
鈴木雅恵

【はじめに】

豊橋市民病院 入退院支援センター 皮膚・排泄ケア認定看護師の鈴木雅恵と申します。平素より地域の先生方には大変お世話になり、深く感謝申し上げます。今回は、当院で2024年1月より開始しました「認定看護師同行訪問」についてご紹介させていただきます。

豊橋市民病院は地域医療支援病院として、地域全体の医療や医療従事者の技術水準向上において重要な役割を担っていると感じております。その役割の一環として、2024年1月より専門性の高い認定看護師と訪問

看護師による同行訪問を開始しました。認定看護師同行訪問は診療報酬では「在宅患者訪問看護・指導料3」に該当し、在宅で療養する方に対して、訪問看護師と専門的な看護ケアにおいて熟練した看護技術と知識があると認められた認定看護師が同一日に訪問することで、よりよいケアの方法などを一緒に検討し、専門的なケアを提供することをいいます。訪問看護ステーション内だけでは解決するのが難しいと感じる事例について、訪問看護師が利用者の生活背景や介護状況等について情報提供し、利用者の日常生活の中で安全に継続できる処置やケア方法を専門性の高い認定看護師と一緒に検討することで問題解決に繋がっていきます。



【対象者】

通院が困難で、真皮を超える褥瘡がある方、人工肛門もしくは人工膀胱周囲の皮膚にびらん等の皮膚障害が継続または反復している方、ストーマ合併症がある方が対象となり、当院に受診歴がない方も対象とさせていただきます。

具体例には、在宅で褥瘡処置やケアを行っているがなかなか改善しない、現在の褥瘡処置やケア方法で良いのか悩んでいる、ストーマ周囲に皮膚障害が発生しなかなか治らない、定期的なストーマ装具交換以外に排泄物が漏れて皮膚障害が発生してしまった、傍ストーマヘルニアやストーマ脱出などの合併症がありストーマケアに困っている方などが対象となります。



【利用料】

医療保険の区分による自己負担と交通費がかかります。交通費は豊橋市民病院から片道直線距離で5km以内の場合は150円、5km以上の場合は5kmごとに150円ずつ追加となります。

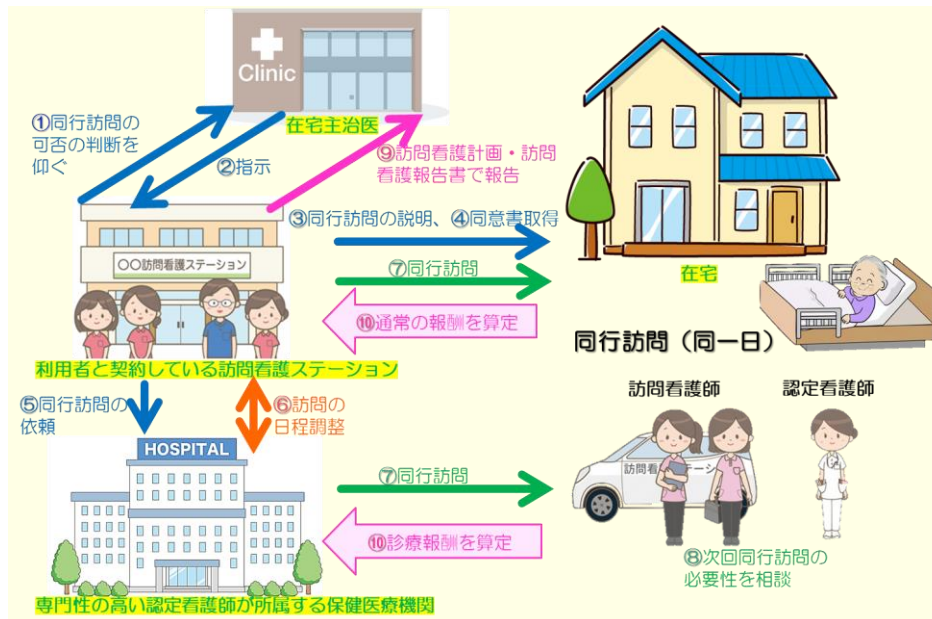
- ・ 1割負担の方：1,290円 + 交通費
- ・ 2割負担の方：2,570円 + 交通費
- ・ 3割負担の方：3,860円 + 交通費

【お支払方法】

豊橋市民病院に近々に受診予定がある場合は、外来受診時にお支払いいただきます。受診予定がない場合は、後日「診療費等のお知らせ」を郵送いたしますので、豊橋市民病院の窓口でお支払い、または銀行振り込み(別途振込手数料が必要)のいずれかで支払いをお願いいたします。

【利用方法】

- ① 訪問看護師が認定看護師同行訪問の必要性を認めた場合、在宅主治医に同行訪問の可否の判断を仰ぐ
- ② 在宅主治医は指示(許可)をする
※ 認定看護師同行訪問について、在宅主治医の指示書の発行は不要です
- ③ 訪問看護師は「認定看護師同行訪問についての説明書(ご本人・ご家族様用)」を用いて、本人・家族に説明する
- ④ 訪問看護師は「認定看護師同行訪問についての同意書」に説明者としての署名と、本人または家族に同意の署名をいただく
- ⑤ 訪問看護師は「認定看護師同行訪問 依頼書」を記載し、「認定看護師同行訪問についての同意書」と「認定看護師同行訪問 依頼書」を豊橋市民病院にFAXする
- ⑥ 豊橋市民病院の認定看護師が訪問看護師に電話し、訪問日時を調整する
- ⑦ 訪問看護師と認定看護師が同一日に訪問し、協働して問題解決に取り組む
- ⑧ 次回の同行訪問が必要か、本人・家族、訪問看護師と認定看護師が相談する
※ 利用回数：認定看護師同行訪問(在宅患者訪問看護・指導料3)の利用は月1回まで
- ⑨ 認定看護師同行訪問時の訪問内容については、訪問看護ステーションが作成する訪問看護計画書・訪問看護報告書に記載されるため在宅主治医は確認する
- ⑩ 訪問看護師ステーションは通常の訪問看護の報酬を算定、病院は認定看護師同行訪問の診療報酬を算定できる



※ 依頼に必要な書類は豊橋市民病院ホームページに掲載していますのでご活用ください。

【認定看護師同行訪問のメリットとデメリット】

本人・家族のデメリットとしては訪問のための費用がかかること、メリットとしては症状の軽減・改善につながる、継続的に評価してもらえることがあげられます。

訪問看護師のデメリットとしては依頼までの手続きに手間がかかること、メリットとしては専門的なアセスメントをしてもらえる、継続的に相談できる、新しい知識・技術・評価法を獲得できることがあげられます。

【おわりに】

認定看護師同行訪問では、訪問看護師が利用者の生活背景や介護状況等について情報提供し、認定看護師が日常生活の中で安全に継続できる処置やケア方法を一緒に考えるなど、お互いがもつ知識や技術を活用し、協働して問題解決できるように取り組んでいきたいと考えています。訪問看護師が介入し褥瘡やストーマケアで困っている対象者がおみえになりましたら、在宅主治医から訪問看護師に認定看護師同行訪問を活用してみるのはいかがでしょうかと提案していただけますと幸いに存じます。



救急科第二部長
斗野 敦士

この度、救急科第二部長を拝命した斗野敦士です。私が赴任した6年前から「東三河の救急医療をよくしたい！」という信念のもとに医療を行っております。救急医療は地域のセーフティーネットとしての役割を担っており、東三河の安心した生活の支えとなることが私のモチベーションです。

高度な救急医療を提供するためには院内の各診療科や種々のメディカルスタッフとの連携に加えて、救急隊や周囲の医療機関などとの連携も重要です。各方面と良好な関係性を保ち、地域全体でチーム医療を推進していくことが救急医の重要な責務と考えています。そのために責任ある発言と信頼される行動をしていく所存です。地域のための救急医療に尽力していきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



腎臓内科部長
渡邊 智治

4月より腎臓内科部長を拝命いたしました渡邊智治と申します。令和4年より豊橋市民病院に赴任し、早いもので2年間お世話になっております。赴任以来大変多くの症例を経験させていただきまして、これまでの何倍も成長をさせていただいたように思います。ひとえに病診連携にご協力いただけた近隣の医療機関の皆様のおかげと感じております。今後も患者さんから学び、その経験を東三河地域の腎臓医療向上に生かしていけるよう、一層気を引き締めて精進してまいります。

当科の特徴は、①腎生検の件数が多い、②血液透析・腹膜透析・腎移植全ての腎代替療法が提供可能であるという点にあるかと思えます。我々にお役に立てる事がございましたら引き続きご指導賜れますと幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。



脳神経外科第二部長
中村 茂和

本年度より第二部長を拝命しました中村茂和と申します。脳血管障害や脳腫瘍などの頭蓋内疾患を診療することが主体ですが、これまでは脊髄疾患や末梢神経疾患にも細々ではありますが従事しておりました。

当院へ赴任して1年経過し、当初は規模の大きさに圧倒されていましたがようやく徐々に慣れてきました。

前任医師の影響も色濃く残っておりますが、これまでの科の伝統を踏襲しつつ新たなことにも挑戦し、これまで以上に東三河地区の医療に貢献するとともに皆様の信頼を得られるよう日々精進していく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。



脊椎外科副部長
井上 太郎

脊椎外科は長い間吉原永武先生が部長として赴任しておられ、私は3年前に8年ぶりに副部長として赴任し、2人体制で診療に当たってきました。そして、当科は年間200-250件の脊椎手術を行っております。

しかし、近年東三河で脊椎外科を対応可能な病院は少しずつ減っており当科の東三河における役割は今後さらに大きくなりそうです。さらに、2024年3月で吉原先生が退職されました。幸い、4月からは名古屋大学整形外科より宮入祐一先生が赴任され、2人体制は変わりません。当院は脊椎脊髄外科指導医が2名在籍する東三河唯一の病院であり、東三河脊椎外科の最後の砦と考えます。前任の先生と比べて若年となりますが、豊橋市民病院脊椎外科としての使命を全うする所存でありますので今後ともよろしくお願いいたします。